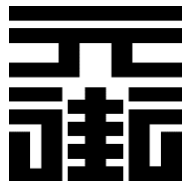


150年間の思いを一つに 元街っ子
~つなげよう! まちへ 世界へ 未来へ~

令和5年9月29日



横浜市立元街小学校



令和5年度 学校だより 10月号

Tel 681-7810 Fax 662-5842

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/motomachi/>

引っ越しが多かった元街小

校長 工藤雅彦

今年度は創立150周年記念の年です。この機会に自分自身が元街小のことをよく知り、さらにそれを学校だよりでも発信していこうと年度初めから考えていました。曾祖父が元本校PTA会長である6年生の宮崎さんもその一人のようでした。宮崎さんは夏休みの自由研究で家業である宮崎生花店の150周年と重ね元街小の歴史を調べたいと夏休みに校長室に取材に訪れていました。そして夏休み明け、見事に模造紙に分かりやすくまとめられたものが廊下に掲示されていて、その素晴らしさには感心させられました。(現在印刷室前に掲示しています。)そこで宮崎さんの自由研究の中にもあった元街小の校舎の場所が時代とともに引っ越しを繰り返していたことを紹介させていただきます。

書物によると、江戸時代の1860年、元町5丁目に学校の前身となる寺子屋「青雲堂」があったとされています。さらに明治初年になると元町にもう一つの寺子屋ができたそうです。そして1873年(明治6年)、学制発布により、元町4丁目157番地に「三到学舎」、山手49番地に「明衛学舎」が開設されました。これが開校の年となっているので今年が150年目となります。1875年(明治8年)にその2学舎が合併され増徳院境内(元町1丁目:現在の元町プラザ)に『元街学校』として移転。その後児童数も増え、元町4丁目151番地(現在の元町幼稚園)に木造2階建ての新校舎を建て1882年(明治15年)に移転しました。その間は学校名も『横浜区公立元街学校』から『横浜市尋常高等小学校』と変わっています。さらに児童数は増え続け1906年(明治39年)、山手27番地(現在の湘南医療大学横浜山手キャンパス)に新校舎を建て移転しました。しかしこの校舎も1923年(大正12年)の関東大震災で全壊全焼してしまいます。当時震災により140名の児童が亡くなられたそうです。震災後の児童は立野小学校や山手公園内にバラック教室やテント教室をつくり授業を続け、その後すぐに壊れた校舎の跡地にバラック校舎を建て戻りました。1929年(昭和4年)ようやく現在地である山手36番地に鉄筋2階建ての校舎が完成し移転します。ただし現在の校舎や体育館の位置は少し違います。その新校舎の落成式が5月4日に行われ、その日が現在の創立記念日となっています。その後、学校名は『横浜市元街尋常小学校』、『横浜市元街国民学校』となり太平洋戦争を迎えますが、校舎は戦火を逃れました。戦後、学校名も『横浜市立元街小学校』と現在の名称となりました。そして1983年(昭和58年)ちょうど創立110周年の年、新校舎全面建て替えのため、山手16番地(現在の山手イタリヤ山庭園)にプレハブ仮校舎を建て一時移転します。翌年の1984年、ついに現在のこの校舎が完成し、プレハブ仮校舎から戻り現在に至ります。

さて、元街小の引っ越しは何回だったでしょう? 150年間、校舎の変遷とともに、このまちの子どもたちを育み見守ってきた元街小学校。これからも皆で大切にして、素敵な学校としてさらに10年後の160周年、そしてさらに50年、100年と続いていってほしいと思います。